

製本のススメ

Vol. 118

立春もすぎて梅の花もそろそろ咲き始め、着々と季節は春に向かっていきますね。でも東京は今が一番寒い時期です。昨年のような大雪は勘弁してもらいたいです。体調の管理はしっかりといたしましょう♪

今回は**ドブ**の話し

多面付けでの印刷の場合 各ページの塗足し以外に余白の空さを取りますね。最近では3ミリと知っている方も多いのですが、**本来は3ミリの塗足し+余白を総称して『ドブ』と言います。**最後の化粧断裁でこの部分を裁ち落す事を「ドブ裁ち」といいます。3ミリの塗足し以外に余白がないと、折った袋部分が膨らんでいるため、化粧断裁の際に、正確な直角が出にくくなります。まず一度余白部分を切り、次に仕上げの位置で断裁する(二度切る訳です)と、正確な直角が生まれます。特に16p(八つ折)では必要な余白といえます。

ドブ部分の寸法は一定ではなく、用紙の余白によっても変わります。コスト事情も影響しているとは思いますが、3ミリの塗足し部分だけでは、断裁でのカブリや曲りなど処理しきれない場合も発生しますので、**5ミリは確保していただきたい**ものです。

また伝票のように厚みのあるものを多面付けする場合には、**束厚の分だけドブが必要と考えてください。**特にメモのような無地の物は、ドブ寸法を忘れがちであると同時にドブ幅の見込みが少なく、その結果実数に用紙枚数が不足という事態が起こります。これは、同時に2面以上ついた状態で作業が進み、最後に切り分ける工程で、断裁の不都合が出るためです。**断裁は常に斜めに切れている場所がある**と覚えておきましょう。これについては、次回お話いたします。

さて、例外もあります。ポスターのように単面付けの場合や、ペラで製本する冊子では袋部分がありませんので、この場合は3ミリの塗足しだけで十分です。しかし1冊の中で、**折帳との混合の場合には、この限りではありません**のでご注意ください。



Teabreak

先日アンカット本を作らせて頂きました。皆さんはアンカット本ってご存知でしょうか？袋とじのように読み手が一折ずつ袋部分を切りながら読むわけで何とも情緒あふれる読み方ですね。明治の初めから大正あたりまでこの手法で多くの本が作られました。読み終えた後 もう一度製本し直して自分の蔵書とするのです。そういう時間の使い方も良いものですね。私もゆっくりと木漏れ日の下で読書できる生活になりたいものです。

弊社ホームページはこちら www.isekiseihon.com

by (株) 井関製本